



平成31年2月27日  
第117号

発行 福岡視力障害センター  
〒819-0165 福岡市西区今津4820-1  
(電話) 092 (806) 1361  
(FAX) 092 (806) 1365

ホームページ  
<http://www.rehab.go.jp/fukuoka/>  
印刷 社会福祉法人 福岡コロニー

## 卒業生に贈る言葉

### 所長 徳永 光則

ご卒業おめでとうございます。

新しい門出を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

これから、皆さんは、それぞれの道へ進み、あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうを用いて、患者さんの痛みを和らげるという仕事に携わり、自らの道を切り開いていかなければなりません。

社会に出て一番大切にしてほしいことは、「人の信頼(信用)を得る」ということに全力を注いでいくことだと思っています。

患者さんとの出会いに感謝し、相手の気持ちを思いやり、真心をもって物事を尽くしていくこ

と、また、その行動を積み重ねていくことで、人から信頼される存在になると考えます。

少しずつで大丈夫、人と比べなくても大丈夫、ゆっくりと確実に進むことが何より大事です。小さな努力も積み重ねることで山を動かすほどの力となり、やがて努力は必ず報われると信じて、頑張っていたきたいと思います。

最後になりましたが、皆さんの今後のご健勝とご多幸をお祈り申し上げますとともに、たゆまぬチャレンジを通じて、更なる発展を遂げられることをご期待申し上げます。皆さん、頑張ってください。

### 同窓会会長 楠原 宏和

不安と期待が交錯する中、センターに入所され早や3年の月日が過ぎ、新たな道へと進んで行かれる6名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。国家資格取得のため日々の学習や自立訓練などご苦労をされたことと思います。しかし、実社会は厳しく、障害を理由に甘えは許されません。

これからの人生、時には大きな壁が立ちほだかることもあるでしょう。そんな時には肩の力を抜き、自分自身を信じて前へと進んで下さい。ハンディに負けず大きく羽ばたいて下さい。心から応援しています。

### 利用者自治会長 松尾 晃

卒業おめでとうございます。そして、お疲れ様でした。

4月から新生活のスタートですね。1人の人間としての活躍をお祈りしています。

寂しがり屋の私なので、たまには連絡ください。(笑)

先輩、今度会う時は、是非一緒に酒でものみましょう🍶

## 教務課担当職員 岩本 稔

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。3年間それぞれ様々な悩みを抱える中、無事卒業できたことを嬉しく思います。クラス担任としてどこまでお力になれたかはわかりませんが、ほんの少

しでも皆様の助けになれていたのなら幸いです。

これからの皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

## 支援課担当職員 名和 宏明

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。センターへ入所された当初は、果てしなく長く感じられたであろう今日までの月日を感慨深く振り返っておられることと思います。

3年間の学習等の成果を得て、それぞれの道を

進まれる皆さんが、より多くの人々の身心を癒されることを期待して、大きな拍手を送りたいと思います。

お身体に気を付けて大きく羽ばたいてください。

# 卒業生からのメッセージ

## 嬉野 剛治

### 3年間を振り返って

入学当初は学校生活を頑張っていけるか、と不安を抱いていました。しかし、私は社会人経験者でしたので、自分なりにクラスに溶け込んで行こうと考えました。

2年生からは、クラス委員を担当することになり、用件連絡等で皆様に頼りにされる存在となりました。

学業については経絡経穴を中心とする東洋医学を学び、あはき師らしくなったと喜んでいきます。茶道部や神戸交流会では他の部員との経験は楽しい思い出となりました。

最後に、通学しながらの学校生活と勉強を両立できたことは大きな糧となりました。

そして、新しい時代に再スタートできることは清々しい気持ちで一杯です。



## I.Y.

3年間はあっという間でした。一番の思い出は3年時の臨床実習でした。地域の方々からたくさんの励ましの言葉をかけていただきとても勇気づけられました。これからはいろんなことがあると思いますが前向きで頑張れそうです。本当にありがとうございました。

## 安藤 晃治

振り返れば長くもあり短かった、たくさんの方々にお世話になりっぱなしの4年間でした。

これからは気付きと経験を生かし、少しずつでもご恩返しができるよう新たな出会いを求めてより積極的に活動に取り組んで行きたいと思います。

有難うございました。

## 宮本 幸範

この3年間色々な事があり、日々退屈のない時間でした。良き先輩や後輩、教職員の皆様、そうでなかった人も今思えば何かしら必要だったと思います。卒業してからもこの出会いを大切にしていこうと思っています。



## O.J.

今は新生活に向けて大きな不安と少しの期待が入り混じった、3年前と同じ気持ちを感じています。日々を夢中で過ごしたここでの生活は素晴らし

いものでした。だからこれからもそうなのだと信じられます。3年間、本当に有難うございました。

## 平成25年度卒 賀屋明久氏からのメッセージ



センターを卒業し福岡県飯塚市にある飯塚病院でヘルスキーパーとして働き始めてから5年

を迎えようとしています。全国的にも数少ないと思われる病院のヘルスキーパー立ち上げから参加出来るという喜びにも似たワクワク感を持ちつつも、地縁も人の縁も無い筑豊の街で一人暮らしをする不安感もありましたが、今では御迷惑をかけながらもいろいろな方々のご支援のおかげで何とか過ごしています。

さて、職場の概要ですがスタッフ5名(主任1名、施術者2名、サポート2名)、マッサージのみの施術です。感染予防の観点からマスクを着用しています。現在利用登録者数550人前後、夜間勤務の方の利用が多く、女性が8割を超えています。ストレスなどからくる不定愁訴の軽減、疲労回復を主目的に少なめの刺激量での施術を心がけています。昨年体調を崩し、仕事を休む日が多かったせいで、利用者が減少しました。まずは己の健康第一という事をひしひしと感じています。

私は20代前半に右眼の光を失いました。アクセンフェルト・リーガ症候群という病気によるもの

でした。幸いにも左眼の視力が車の運転が出来る程度にはありましたので、仕事や日常生活においてさほど不自由は感じておりませんでした。その後、左眼も視力が落ちていきました。二年間の引きこもりを経たある日、知人から「歩行訓練してくれる所があるんだけど行って見ないか?」と言われたのが、センターに入るきっかけです。自立訓練から専門課程へ。出来なかった事が徐々に出来るようになり、意欲が出てきました。私の場合特別な工夫はありませんが、目の前の事を愚直に続けていく事が大事なんじゃないかと思います。

最後になりましたが、在所生の皆さん。本を読んで(聞いて)みませんか。ジャンルは問いません。勉強などで忙しいでしょうがコミュニケーション力のアップにも繋がり、行き詰った時の息抜きにもなると思います。皆様のご健闘をお祈りしています。



## かおりの園再生プロジェクト始動

昭和49年10月に国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局福岡視力障害センターの一角

に、目の不自由な人のために四季折々に匂う木や花の手触りを、そして自然の息吹を感じられる場とし



て、地域の人たちの協力のもとかおりの園が立ち現れ、交流を図る場所として福祉プラザと命名されました。

それから、40数年の年月が流れました。なかなか手入れが思うままにならず、藤棚など現在もかおりを豊かに匂わず植物もありますが、往年の風情が感じられないようになりました。

もう、14～15年経ったのでしょうか。デンマークのコペンハーゲンで感覚を楽しむ公園に出会いました。そこでは、路面の変化をつけたり、音の鳴り物があったり、植物の香りを楽しむ趣向が凝らされていました。いつか、誰もが楽しめるような公共空間を作りたいと思っていました。

そんな中で、ハーブや植物に詳しい専門家を福岡市社会福祉協議会のボランティアセンターの方

から紹介を受けました。いま、時代は多様性を大切にする社会になり様々な立場の人たちが、いろいろな側面で関わることができます。

そこで、私たちが本来持っている諸感覚を楽しみながら交流できる場として、再びかおりの園を整備し、多くの人たちの憩いの場としたいという願いから再生プロジェクトを立ち上げることにしました。ハーブはもとより四季折々の木々や花々のかおりや手触りを楽しみ、収穫したハーブでお茶を楽しむ。自然のもたらす実りを地域やボランティアの方々と楽しむ。そんな場としたいと考えています。それぞれの持つ少しだけの時間や少しだけの力や智慧を集めて、心豊かな時間を過ごせる場をご一緒に作りませんか。



## Eyeあいフェスタ



第8回目を迎えることとなった、Eyeあいフェスタ。今年度は11月18日(日)、九大学研都市駅から徒歩1分圏内にあるさいとびあ西部地域交流センターの体育館で行われました。

開催目的として当センターが実施する普及啓発活動及び情報発信の事業の一環として、視覚に障害のある方の仕事や生活支援について、地域の方々に理解や知識を深めて頂くことや、障害者スポーツ体験を通じて、パラリンピックで行われている種目などの障害者スポーツの理解、知識を深めることを目的に開催しました。

企画内容としては特に子供達に障害への理解を深めてもらえるように、楽しみながら学んでもらえるような企画内容にしました。

当日は600名を超える多くの方々が来場され、大盛況でした。アイマスクをして水汲みを行う。手引きの誘導の仕方を学ぶだけでなく実際にアイマスクをして歩いてみる。視覚障害者が使用して





いる機器の説明を受けるなど子供達は楽しみながら、時に真剣な眼差しで多くのことを知って、学べたと思います。また、親御さんには障害者スポーツや東京パラリンピック2020に興味を持って頂ける

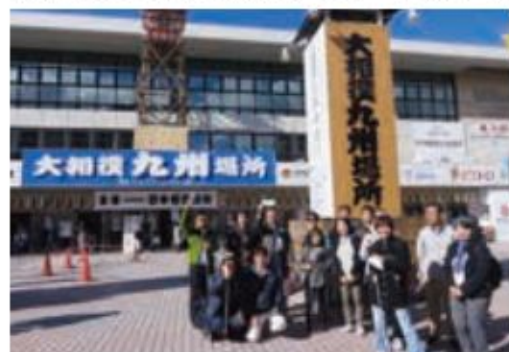
きっかけになったと感じています。

より多くの方々に障害への理解などを頂けるためにもこうした活動を続けていきたいと思っております。

## 自立訓練レクリエーション

自立訓練生の余暇活動として自立訓練生8名、職員6名、ボランティア1名が11月14日(水)に大相撲九州場所の観戦に行きました。

みなさん行きのバスの中では「楽しみー!!」「早くいきたい!!」など初めての相撲観戦に胸を膨らませていました。職員が注意事項として「座布団を決して土俵に投げ入れないように!」と伝えた際には「えっ!だめなのか!」「一度はやってみたかった。」など落胆の声も聞こえることもありま



した話をしてい

るうちに会場に着き、会場入口で全員で記念撮影を行いいざ会場へ。場内に入ると力士同士のぶつかり音、四股を踏む音、行司の「ノコッタ」の掛け声、勝敗が付いた際の歓声。様々な音や声が響き渡り、各々がいろいろなことを感じたことと思います。終盤には、横綱 稀勢の里関の取り組みを見ることが出来、皆さん満足していました。



## スポーツ訓練&もちつき大会

12月13日(木)にスポーツ訓練発表会(後期)を開催しました。利用者と職員が参加して2競技



(ボッチャ:8チーム、フロアバレーボール:4チーム)を実施しました。ボッチャは1年生同士の決勝戦となり1点差で1年B班が優勝しました。フロアバレーボールは予選を1位通過した1年生が有利かと思われましたが、決勝戦では2年生が終始リードし15-10で優勝をもぎ取りました。

スポーツ訓練発表会終了後、引き続き、もちつき大会を行いました。今年で6回目になりますが、今津ボランティアなぎさの皆様にも例年と同じくご協力して頂きました。2人1組でテンポよくついて仕上げたもちは極上の味でした。

怪我もなく、とても有意義なひとときを過ごすことができました。



## 障害者週間記念講演

去る12月5日(水)14時半から16時半まで、当センター会議室において、北九州市にある化成フロンティアサービス株式会社に勤務されている中村忠能さんを講師に迎え、障害者週間記念講演会が開催されました。中村講師は40代、全盲で、盲学校、筑波技術短期大学の情報処理科を経て化成フロンティアサービスに就職され、パソコンの音声ソフトを使って各種事務を行っておられます。

講演会のテーマは「見えなくてもできること・仕事と日々の生活を通して」、2部構成で行われました。講師はブレイルメモを使いながら、前半は学生時代から就職まで、職場の紹介、20年間の仕事を振り返っての思いについて話されました。

休憩を挟んで、後半はご自身が使っておられる携帯画面用の点字シールなどを紹介されながら、日々の生活の工夫、障害や自分自身との向き合い方、現在取り組んでおられる福祉活動について話されました。



## 利用者募集

### 1 当センターが提供する施設障害福祉サービス

サービス名	サービス内容	利用開始日	利用申請受付
自立訓練 (機能訓練)	歩行訓練、点字訓練、パソコン訓練、タブレット訓練、日常生活訓練(身辺処理・調理等)、スポーツ訓練、視覚的補助具の紹介、教養等	随時 (原則として月曜日)	随時
就労移行支援 (養成施設)	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家試験受験資格取得に向けた学習、進路支援等	毎年度 4月上旬	年3回

※通所が困難な方に宿舎・食事・生活支援等を行う「施設入所支援」サービスも提供しています。

### 2 利用に関する問い合わせ

サービス利用や利用料等の詳細、パンフレット・紹介ビデオ(DVD)等の送付、施設利用のお申込み、見学をご希望の方は、下記までお気軽にお問い合わせください。

電話：092-807-2844(支援課直通) 092-806-1361(代表) Eメール：shienka-f@mhlw.go.jp

## 編集後記

### 専門課程2年 成富 浩明

平成30年度の終わりが近づくとともに、平成も最後の年となりました。卒業生の皆さんは平成最後の国家試験合格、そして来年には私たちが新しい元号最初の合格者となるよう日々勉学に励みたいと思います。皆様1年間お疲れ様でした。

### I.K.

3年生の皆様卒業おめでとうございます。今までで一番の難関であった国試を乗り越えて鍼灸師として旅立っていく姿はどこか誇らしげでありとても眩しく映ります。先輩方と戦ったスポーツ大会や実技指導、バス停での談笑そのひとつひとつが大切な思い出です。これからの益々のご活躍をお祈り申し上げます。